

科目名	教科書名	副教材名
中学1年 技術・家庭 家庭分野	新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍)	被服実習教材 調理実習食材

### 1. 授業のねらい

さまざまな実習などを通し、生活に必要な基礎的な知識と技術を身につけて、自分と生活との関わりについて理解と関心を深めます。自分で日常生活を工夫することのできる人をめざします。生活をより良くしようとする能力と態度を身につけていくことを目標にします。

### 2. 授業のすすめ方

実践的・体験的授業が重要な教科なので、授業の中に実習を取り入れます。小学校で学習した内容を基礎にして、生活に関する基本的な内容を幅広く学習します。

①授業は週1回です。

②実習は、調理系・被服系・保育系・住居系などから、何度か行います。

③調理実習等を家庭科室で行う場合があります。その場合は、事前に連絡します。

④教科書に基づき、電子黒板、タブレット端末を使用した生徒参加型の授業を進めていきます。

⑤授業での重要なポイントについては、プリントを用意します。授業の順番にファイルにはさんでください。

ファイルはA4サイズの2つ穴ファイルを各自ご用意ください。詳細は授業で説明します。

### 3. 学習上の留意点

①家庭科は生活を学ぶ授業です。家庭生活の中で活かすことができるように、積極的に授業や実習に参加することが大切です。学んだことを家庭生活で多いに活かし、また復習するようにしてください。

②実習のための身支度・授業の用意を忘れないようにしてください。

③実習のときは、危険が伴いますので説明を良く聞き、同じ班の人と互いに協力し、それぞれの役割を果たし積極的に取り組んでください。

④新聞やインターネット・本などを上手に活用し、社会の変化に目を向け情報収集することも、家庭科を学ぶ上では大切なことです。

⑤シンキングツールを活用した考察やディスカッションなどを行います。取り上げられた課題について深く考え、自分の意見をまとめて他者に伝えたり、自分と異なる意見を知ったりすることにより見識を深めましょう。

⑥提出物は期限を守って、完成させた状態で提出してください。

⑦担当教員が指示した場面以外での、授業の録音・録画は認められません。

### 4. 副教材・参考文献

①被服実習教材      ②調理実習（調理実験）食材等

### 5. 評価方法

①技術分野と家庭分野のすべての評価を合算し、各学期末に平常点を加味して100点満点で通知します。家庭科のみの成績は出ません。

②年度末に各学期の評価から学年成績（評定）を5段階評定で算出します。その他に、「知識・技能」「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つによる観点別評価をそれぞれA, B, Cの3段階により評価します。これらも技術分野と家庭分野で合算して出されます。

③家庭科の評価は 1) 授業中の態度（忘れ物も含む） 2) 提出物 3) 各実習の技術取り組み 4) 振り返りの知識確認 以上の4つで評価します。

### 6. 定期考査

定期考査は行いません。代わりに、授業の振り返りとして知識確認を行います。

毎回の授業に集中し、必ず復習してください。

指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	四月	「家庭科」を学ぶにあたって ◆私たちの成長と家族・地域 「私たちの生活と家族・家庭の機能」 「中学生としての自立」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業準備</li> <li>・授業姿勢</li> <li>・ロイロノートを用いた提出課題</li> <li>・振り返り知識確認</li> <li>・実習準備</li> <li>・実習態度</li> <li>・実習技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科を通し、これからの生活を展望する能力と態度を育むことを理解する。</li> <li>・家族や周囲の人びととのかかわりについて関心を持ち、家庭と地域をより良くする方法を考えることができる。</li> <li>・制服を着用するにあたり、衣服のはたらきをわかり、目的に合った服装を工夫することができる。</li> <li>・衣服の手入れの方法を知り、活用できる。</li> <li>・基本的な手縫いの縫製技術を身につける。</li> <li>・裁縫道具を安全に正しく使用方法を身につける。</li> </ul>
	五月	「家庭生活と地域とのかかわり」 ◆自分らしく着る・快適に着る 「日常着の活用」		
	六月	・自分らしく着る 「日常着の手入れ」 ・手入れのしかたを調べよう ○被服実習 手縫いの基礎縫い		
	七月	・玉どめ・玉結び ・2つ穴ボタン ・スナップボタン		
二 学 期	九月	◆幼児の生活と家族 「幼い頃の振り返り」 「幼児の体と心の発達」 「幼児の生活と生活習慣」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業準備</li> <li>・授業姿勢</li> <li>・ロイロノートを用いた提出課題</li> <li>・実習（実験）準備</li> <li>・実習（実験）態度</li> <li>・実習（実験）技術</li> <li>・振り返り知識確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼い頃を振り返り、幼児の発達の特徴や支えられ成長してきたことを理解する。</li> <li>・自分の食生活について振り返り、現代の食生活の問題点を把握する。</li> <li>・栄養素のはたらきを理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。</li> <li>・食品の栄養的特徴を理解し、食品群別摂取量のめやすを活用できる。</li> <li>・安全と衛生に注意し、調理実習（調理実験）を行うことができる。</li> <li>・食品や調理器具（実験器具）の適切な管理や扱いができる。</li> <li>・献立について考え、これからの食生活に役立てられる。</li> </ul>
	十月	◆食生活と自立 「健康と食生活」 ・食事について考える		
	十一月	○調理実習又は調理実験		
	十二月	・栄養素のはたらきと食品 ・中学生に必要な栄養 食事摂取基準 食品群別摂取量のめやす		
三 学 期	一月	◆快適に住まう 「安全な住まい」 ・住まいの安全対策 ・災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業準備</li> <li>・授業姿勢</li> <li>・ロイロノートを用いた提出課題</li> <li>・振り返り知識確認</li> <li>・実習準備</li> <li>・実習態度</li> <li>・実習作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の安全を考えた住まい方を工夫できる。</li> <li>・非常時の備えとして必要なものがわかる。</li> <li>・住まいの基本的なはたらきと役割がわかる。</li> <li>・快適な住まい方を考えて適切な工夫ができる。</li> </ul>
	二月	「住まいのはたらき」 ・住まいのさまざまな役割 ・共に住まう 「快適な住まい」 ・快適な室内環境		
	三月	○快適な住まいに関する実習		

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。